

**第1次佐久穂町行財政改革大綱策定に伴う住民説明会  
会議録**

日時	2014.11.11		時間	19:00-21:00			
場所	茂来館 中会議室		参加者数; 51人		説明者; 岡部豊一、浅井弘幸		
参加職員	挨拶	佐々木町長	司会	小宮山昇平		書記	岩崎恒春、小池良
	大工原進一、相馬哲雄、高見澤稔、佐々木茂、小宮山昌男、相馬信治、井出明、友野裕行						
その他参加者	町職員4人(伊藤和江、高橋智幸、星野光輝、布施秀雄) 議会関係者4人(浅井正昭、井出正臣、倉澤治貴、高見澤春野)						

記事 (質問、意見、要望、対応状況など)

区分	発言者	質問・意見・要望等	回答
意見	男性	浅井さんからの説明があつてパブリックコメントを締め切ってもご意見は伺うということですので、それをしっかり広報してもらうようにお願いします。このチラシを見ると、締め切られてもうあきらめられても困るので、意見を承っていくことを広報して下さい。	広報します

意見	<p>それといくつかあるのですが、全て話していると時間が足りませんので主な所について、意見と質問したいのですが、100ページ近い資料を読ませていただきましたが、もう少し細かい内容に踏み込んでいるのかと思いましたが、それほどでもないと思っています。①学校跡地利用について検討委員会を設置して提言がなされているかと思いますが、一体どういう提言がなされて町としてどのように考えているのか、又どういった他の意見が出ているのか全く分からなくて、僕自身も小中学校の統合委員会に出ていましたが、私の所にどうなっているのかと聞きに来る方もいますが答えようもないので、町の方としてもどのように進めているのかについて、検討がただ進んでいないではなく、明らかにしてもらいたいと思います。②公共施設ということでふと感じたのですが、日曜日に茂来館に来てみて利用団体が掲示されていますが、朝から晩までの間に3団体しか書いてありませんでした。今日はけっこう入っているようですが、確かにここを作る時はいろいろあったかと思いますが、こういった運営状態をこのままにしておいて良いのか、町として全く考えていないことはないかと思いますが、利用者として考えればいつ行っても部屋が空いていて良いなどという側面もありますが、やはり経営という観点からすれば、このままのあり方で茂来館が良いのか考えていくべきだと思います。③補助金については当面5～10%ということで、今後改めて検討されるという事ですけれども、もっと踏み込んでいない補助金については全額カットもやむなしとか、あるいは必要と思われる事業については、継続して補助していくとか、そういうことも考えて欲しいと思います。それと今日説明を伺いながらふと思ったのですが、④今の区のあり方だと思いますが、人口のわりには区が多くあって、世帯数や人数もまちまちです。それをやはりならしていくことが必要だと思います。以前高森町に伺ったことがあります。確か13,000人位の人口で20個くらいの区だったかと思いますが。そこでどういう事をやっているのかと言えば、5年計画とか区の役員が検討していますが、そこに必ず町の職員が一緒になって知恵を絞っているという姿があります。ですから、岡部さんも言っていました、国からの補助金の使い方というものも活かしていけば、おもしろい仕組みが作れるかと思えます。⑤街灯の管理についてですが、佐久町時代の看板がそのままになっていて、それをなくしていくという話であった、1000円払えば1年間使わせてくれるので手を挙げてもらった所がありますが、それを電気料含めて年間1000円は安いものだから、それを企業に年間1万円とか負担してもらえば電気料2400万円に対して2300位ある街灯から考えれば、全部というわけにはいかないが、それくらいの見合いが取れるのではないかと思います。電気料の分を負担してもらうことを含めて、広告代わりに使ってもらうことを考えていったらと思います。⑥ゴミゼロで言えば葉っぱの事業で有名な上勝町で、ゴミの収集はやっていないんですね。山間部にある小さな町で1ヶ所に住民が持ち寄るという形で、そこで徹底した分別をするという仕組みをつくっています。真似をするということではないが1つの工夫でもあるということで、大胆なことが必要だと思います。ラジオで聞きました。倉本聡さんが出演しておもしろいことを言っていました。塾を開いてそこでは、前にやった事はない・前例がないということは禁句、そうはいってもというのも禁句、と言っているそうです。要するに創作という言葉があって、同じつくるでも、作業の作るはお金があって前にやったことがあるから作るであって、創の方はお金がなくてもあるいは前にやったことがなくとも創り出していく、という意味で言っていました。そういう事を生かしていければ、5億円がなくなって良いチャンスかなと思います。最初に町長が言っていました、やはり前を向いていかなくてはならないと思います。後ろを向いたらもうこの町はおしまいになるだろうと思います。多分綺麗ごとでパートナーシップという言葉で片付けられないと思いますが、住民と役場は、いがみあいという事もあるかと思いますが、そういった事を踏まえつつ議論がつくされていければと思います。</p>	<p>①学校跡地利用につきましては、来年の4月から小・中学校が1校ずつになります。空いた校舎等を活用する件ですが、既に提言書をいただいております。町の方ではなかなかスピーディな対応が出来ていない状況です。しかし、まず私たち職員として、どういうものが必要か、という視点も必要ではないかという事で、遅ればせながらチームを立ち上げて検討をしています。そのコンセプトとなっているのは、建物があから使うのではなく、こういう事をやりたいから職員として、個人として考えを書いて下さいということで、20名近い職員で3チームに分かれてワークショップをやっています。まだ完成形にはなりません。中央小の問題については、少し1歩進めているという状況があります。その他はご意見として伺いました。ありがとうございます</p>
男性		

意見	男性	<p>佐々木定男町長に是非お願いがあって本日参りました。それはどういうことかという、合併前後にいろいろ始めた町の事業、やはり佐々木町長のお力で方向を決めていただくというか、廃止を含めて是非きちっとやっていただきたいとは思っています。合併で大変な事業を起こされて、個人的には佐々木町長を町の誇りと思っておりますので、是非その辺をお願いします。それと私は60歳後半になるのですが、先ほどの浅井さんの説明の中で皆さん暗くなるなって言われましたが、暗くなるなど言われても総論は無理です。各論でがんばらなければならないわけで、総論で暗くならない方は頭がおかしい人だと思います。僕らの年代で嫌なのは、同窓会で集まると、俺らの生きているうちは年金は破綻しない、それでいいじゃないかという意見が非常に多いです。非常に情けない事です。しかし、そのつけは子どもとか子孫に行くわけです。どんなふうになるか分からないし、明るい見通しはないにしてもやっぱり誇りというか、先を見失わないように、特に町の中では役場の存在は大きいのががんばっていただきたいと思います。あと、総論的な事とか内容は役場の方が一生懸命考えていただいて、一律こういうふうにかットすると言われれば我々は協力するしかないと思っています。自分の仕事の中で、1つだけお願いというか考えているというのは、お金が苦しいからといって心まで売ってしまう内容・文章はせつないと思います。ついこの間も健康管理のことで町民ドック等について話し合いがありました。その中でやはり私は絶対いかなのは、八千穂から佐久穂になったのですが、昔からの健康管理に対する良い意味でのプライドを投げうつようなことは町ではやっていただきたくない、これは金銭的なことではありません。先ほどの書類の16ページの町民ドックの中で、この言葉は非常に不本意ですけど、「本来自分の健康は自分で守る」という観点から自己負担の見直しが課題であると書いてありますが、これはうそですよ。だったら前から補助金を減額しなくちゃいけないですよ。今になって自分の健康は自分で守るという観点から減額が当然であるということは、僕は30年近く八千穂に来てから、こういう言葉は初めて町の関係者から聞きました。それであれば、八千穂も佐久穂も人前で健康管理の事は言わない方が良いと思います。自分の気持ちまで苦しいからといって平気で売ってはいけないと思うし、こういう言葉はちょっと切ないと思います。その時の会議もそうなのですが、大雑把に言ってしまえば健康管理はやれるところであればどこでやってもらっても良いと、町は主導権を握ってこういう健康管理をやりたい、こういう健診をやりたいという考えではなくて、現場の医療機関に下駄を預けるような、そういう考えでは、当事者として非常にさみしいものがありました。以上です。</p>	<p>ご意見としてお伺いしておきます。ありがとうございました。</p>
----	----	---	-------------------------------------

<p>質問</p>	<p>男性</p>	<p>何点か意見と質問をします。最初に行財政改革大綱そのものに異議をいうつもりはありませんが、これをいろんな歳出削減の項目が特別対策プランの中でいろいろ出ていますが、それを作るにあたって、まずこの町をどういう特色のある町にしていくのかと、町の現状を考えた上でどういったものがたくさんあってどういったものがないのか、我々住民がここに住んで、よそから住民が佐久穂町がここが良いからここに来たいというようなまちづくりに何を売りにして何をやっていくのかという方向性をしっかりと、これは役場だけでなく住民も含めて議論をして、そういう方向性を持っていくためには、今後公共事業にしろ補助金の削減にしろ、いろんな所で大きなコンセンサスを作った上で進めていくことが必要だと思いますが、この点について町ではどのように考えているのか、最初の質問にしたいと思いますが、次に、「協働のまちづくり」が述べられています。これについてはこれまでも町はやってこなかった事はないと思います。しかしなかなか出来てこなかったのは、いくつかの問題点があったかと思えます。1つは住民の参画意識というものが十分形成できなかった、それとも1つは住民がそういう事に対して、住民自身の運動、主体性をつくることできなかったのではないかと思うところがあります。その参画意識、主体性をつくるためには、計画を作る段階から住民の参加を求める、それから計画を作っていく過程においても、こういうことでこういう計画を作っていくことが必要だと、という町からの説明、例えば今日の説明会についてももっと早い段階で各地区でもっとやっていく事が必要だと思います。今後、いろんな計画づくりを進める上で、計画を作っていく段階から住民の参画を、住民の説明が必要だと思いますが、それについての町の考え方を質問します。3つ目はまちづくり委員会の関係ですが、これは区の再編や区の統合といったものが1つの考え方としてありますが、区の整理についているような補助金や公共事業を含めた中で非常に大きな影響があります。ということは、支出を削減する上で非常に大きな効果がある部分です。もっとこういったものについて、特別対策プラン等を見ますと、H32年度までに検討となっていますが、基本的な区の整理・統合あるいはまちづくり委員会は、最も基本になる部分ですので、これについてはもっと早く、せめてH30年には実施に移せる、前倒しすることが必要ではないかと思っておりますので、この点についても町の考えを教えてください。</p>	<p>どういった特色の町という質問ですが、行革大綱を作るにあたって町の骨になる部分方向性について、はっきりできれば良かったというのが正直の気持ちです。様々やっている事業の中でどの事業を町方向性にしていくのか、議論の中でははっきりできませんでした。ですが、今回の大綱は議論のきっかけです。これで全て終わりだとは考えておりません。事業の中にも検討という形で表現があまりないものもあります。今後皆さんと真剣な議論をする中で目指すべき目標を出していければと思っています。ただし、交付税の減額が始まるという目の前の課題がありますので、取り組まざるを得ないということで今回はじめさせていただいたことでもあります。ご理解のほどよろしくお願いします。次に協働のまちづくりについてですが、協働・パートナーシップというのは、平成12年、13年から既に各地で取り組まれており、先進の自治体ではまちづくり基本条例などを作っています。条例化するかしらないかは別の問題として、本来はやはり参画又は参加という言葉に区分けされるように、計画段階から住民の皆様と一緒にやっていくという姿が本来の姿だと思います。そのために今回の大綱は先ほどの説明にもあるとおり、目前に迫る交付税の減額という影響が大きいので今から考えていかななくてはならないということで、どちらかと言えば削減一辺倒を行政の内部として検討し、ヒアリングを経て皆様に提案しているという流れを説明させていただきました。今後まちづくりを進めていく、第2次総合計画、地方自治法に規定されている町の最上位計画ですが、こちらがH28年度をもって終了しますので、そういう段階になりましたら参画によって作り上げていく姿勢が必要になりますので、ご理解をお願いします。それとまちづくり委員会ですが、やはり合併した10年前を思い出すと、同じ方向を向いてまちづくりをするということが本来の姿だと思いますが、合併という特殊な事情があったため、地区に区の成り立ちをおまかせしたという経過もあるかと思えます。従って細分化されてしまい、58の区があります。12000人の町で58の区は普通は考えられないと思います。合併の流れの中で、同じ区分けにできるというのはなかなか難しいと思います。いよいよ人口が減少、高齢化が進む中で成り立たない区というのは出てくると思います。その中でお互いに自分の地区を知るとともに相手の地区も知ることほ重ねる中で、統合や整理という言葉が良いか分かりませんが、協働関係を作っていく、再編することを考えていきたいと思っています。ご意見を頂いたように早くやる事が大事ですので、ご意見としてたまわりたいと思います。お願いします。</p>
-----------	-----------	--	---

意見	男性	<p>概略については理解できるところではありませんが、最初のどういう町を作っていくのかについては、まず謳うことによって削減しなければならないことと同時にこういう町にしていくという2本の柱で住民に対して説明を行いコンセンサスを得て前進していくことが大切ですので、どういう町にしていくのか、まずこの点を今後の中で進めていただきたいと思います。2番目の問題ですが、協働のまちづくりについて、この計画もそうなのですが、町にいろんな計画が行政中心で作られているのが実際です。そのために住民の中からは町にやらされているという意識になってしまう。しかし、最初から計画に携わり、区の中に説明を最初の段階から説明をしていけば、やらされているのではなく、やらなきゃしょうがないんだと住民自身がやらなければならないという事になると思うので、計画づくりの段階から参画・説明を、今後しっかり進めていただければと思います。3つ目の区の整理については、合併時点から問題があったことですが、この点については行政主導で、大胆に行政側からこういう形でどうかというような提案をしてもらいたいと思います。17年度もそういった意見を述べさせてもらいましたが、それは住民から出てこなくて、はっきりいって逃げの姿勢が強かったと思います。しかしまったなしの状況になってきたので、この点はしっかり行政が主導して、それを住民に納得していただいて実施していくこと、これがまちづくりを進める上での最も基本のひとつとなりますので、それを踏まえ早く進めていただきたいと思います。以上です。</p>	<p>ご意見として承っております。ありがとうございました。</p>
----	----	--	-----------------------------------

意見質問	女性	<p>17ページの学童クラブの運営についてお話があったのですが、来年度から佐久穂小中学校として合併するというので、八千穂地区には合併をどうするのかというアンケートを何回もとって合併しますといった時に、町からの説明ではしらかば学童クラブは残します、通学路もしっかりしたものを作るからと、八千穂地区の方々は心配なさらないでとお話があった中で、先日通学路に関する説明があった中で、しらかば学童クラブは残すという話があったり、どれだけの利用者があるかアンケートをとります、と言ったままそのままになっていたり、今日の会議資料を見るとH30年にしらかばは廃止しますよとなっていることは決まっていたのに、課によって説明が変わっていて、全く八千穂に子どもを持つ親は納得できない部分が多くて、統合するにあたって全く損するというか、納得できない部分が出てきていて、このしらかば学童クラブは廃止になってしまうんでしょうか、利用料値上げにしても、アンケートをとるとなったのにもかかわらず、いっこうに話がないというのは、一体どうなっているのでしょうか、教えて下さい、</p>	<p>こども課長の渡辺永です。今ご指摘のしらかば学童クラブ、まず小学校の統合問題の時に当初、八千穂小学校は残るとい、後でという状況でありました。その後八千穂小学校のPTAの皆さんからスタートを一緒にしたいということで、統合ということになりましたが、その後町の方で子ども子育て支援に関するニーズ調査を行いました。それを分析する中で学童クラブに関しまして、やはり「しらかば」は残してもらいたいと意見がありました。これについては町でも慎重に取り上げまして、学校が1つになっても2学童体制でいくということで方針を決めているところであります。その中で過日通学路の説明の折に、いろいろご意見を頂いた中で、しらかば学童クラブまでのスクールバス運行についてが1つの大きな問題になろうかと思えます。そのような中で教育委員会で決めました通学路の運行地区については、八千穂中学校地籍に停留所を設けることでしらかば学童クラブを利用して頂くこととなりますが、一部スクールバス通学区域から外れてしまう地区があります。これについては過日の説明会の折には、利用実態調査をさせていただいてその結果で検討したいと回答してあるところです。また結論には至りませんが、保護者の皆さん子どもの皆さんの動向をしっかりとつかんだ中で十分検討したいと思っております。もう1点、今日の説明資料の中でH30年には統合すると記載しております。先ほどの浅井からの説明で申し上げましたが、この状況については町としても放課後の子どもたちの動向を推測でしか考えられません。そのような中で希望的に想定させていただいている所ですが、やはり実態の動向をしっかりとつかんだ中で最終決定していきたいと考えております。その状況によっては統合せずずっと2学童体制を維持することも可能だと思えます。また、実態によってはH30年度より早く統合することを検討しなければいけないと思えます。まずは、やはり放課後の子どもたちの動向、居場所づくりとして最優先に考えまして、それにあわせて保護者の皆さんのご意向・実態を十分つかんで検討した中で、方向づけをしていきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。よろしいでしょうか。</p>
------	----	--	---

意見	女性	<p>ありがとうございます。きっと子どもも小さくて話にも来れなくて八千穂福祉センターの時も人数が少なかったと思いますが、子どもを持った親にもしっかり説明してくれる、多分チラシを見たけど関係ないと感覚的に思っている子どもを持つ親たちはけっこう考えているんですよね。このしらかば問題だとか通学はバスにするのかについて、すごく不安に思っていて、小海線利用はどうなのかとか話はいろいろ出していますが、一向に話が進んでいるのかどうか、あと半年もない中でどうなんだとすごく親たちは不安に思っているの、説明会だってもっと情報を保護者たちに出していただいたり、もっともっとちゃんとしていただかないと、八千穂地区の親からは不満がたくさん出てくるかと思うので、この前の通学路説明会をやった後に、こういう意見があったけどこういうふうにしていきますといった対応策だったり、文書を一通出していただければ、もうちょっと八千穂のお母さんたちは落ち着いていられるのかな、あのままだけどどうなんだという意見はすごく、私たちが今日役員が3人来ていますが、ちょっと先が見えなくて不安なので、よろしく願います。</p>	<p>大変申し訳ありません。こちらも説明不足、思慮不足ということで、該当する皆さんにはご不安、ご迷惑をおかけしております。出来ることから早急に対応させていただきますので、よろしく願います。</p>
意見	男性	<p>青木先生から健康管理の問題と出浦さんからまちづくり、町のあり方についてお話がありましたので、一言だけ言わせていただきます。地域健康づくり員については今回の方針ではなくしていくことを考えているようですが、これについては担当課長からもお話を伺って、私も健康づくり員をやった経験もあるので分かりますが、確かに保健推進員がいるから統合すれば、一緒にすればいいだろうと、それはそれでそうなのかなと思われませんが、この間9月に佐久地域の保健福祉大学で、山形県鶴岡市に行く機会があったのですが、そこで気付いたのは、山形・鶴岡の人たちが佐久の健康づくりについて学びたいということで、半分招かれた形で視察させていただきました。佐久の健康づくりについて、佐久徳というか旧八千穂で進めてきたいろいろな取り組みがあったかと思いますが、佐久病院と手を携えてというか、その中で衛生指導員たちが進められた事業があった、私も気付きませんでした。前島先生の発表の中で八千穂時代にも一度衛生指導員については、予算出さなくてもいいだろうという経過があったが、自分たちで自費でもやってきたという話がありました。今そういった状況ではないですが、やはり健康づくりというか、地域というか八千穂時代から貰ってきた1つの特色ですから、なくすかどうかについては、地域の中から選出するのが難しくなっているということですので、簡単ではないと思いますが、何らかの形で精神として生かせることは継続してもらいたい。単純にカットすれば良いということではないと感じておりますので、今後どうしたらよいかということはありませんが、その辺だけは考慮に入れていただければと思います。</p>	<p>ご意見ありがとうございました。</p>